

# 美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？

コラム 第15回 妻木平遺跡で重要な発見が続々

～祭祀空間から明智氏の居館へ～

**妻** 木平遺跡は、土岐市南部の妻木町に位置する市内でも有数の広さを誇る遺跡です。平成22年度からこれまでに約27000㎡の発掘調査を行いました。その結果、縄文時代から近現代の長期間にわたって、居住空間や田んぼなどとして利用されていたことが判明しました。今回は、令和2年11月から令和3年6月にかけて行った最新の調査成果を紹介します。

## 鎌倉時代の祭祀空間か？

調査は、段丘面上と段丘崖下(谷)という立地が異なる2箇所で行いました。特に段丘崖下(谷)からは、水を流すための木製の管などの遺構やさまざまな種類の遺物が見つかり、出土品の中には下駄や曲物、箸などの木製品や、鉄鍬や刀子などの鉄製品などが多数含まれていました。その中でも、箸は破片も含めると約2500本が見つかっており、これ程多量に箸が出土するのは、全国的にも極めて珍しい例です。これら

の箸の中には、先端部が炭化しているものや地面に突き刺さったものがあり、民俗事例でも五穀豊穡を祈願する際に箸を用いる例があることから、日常食器としてではなく、祭祀の時に使う道具であったと考えられます。その他にも、墨書が施された陶器や筒矢、桃の種子など、雨ごいや大雨を止める儀式、魔除けや五穀豊穡を祈る儀式に用いる例がある遺物が、まとまって見つかっています。この場所が居住地からは6〜7m低い場所にあることや、すぐ西側を妻木川が流れていることを踏まえると、祭祀の場として使用されたと考えられます。

## 室町時代には明智氏の居館の堀に

その後、室町時代に入ると、この谷は明智氏の居館の北側にあたる堀として使用されました。その状況は、谷の斜面を削り拡張している痕跡からうかがうことができます。堀の西側は妻木川が流れており、自然地形を巧みに利用した、非常に防御性の高い居館であったことが分かります。



調査地と妻木川 (東から)



大量に出土した箸



墨書土器



木製品 (下駄)



鉄製品 (筒矢)



鉄製品 (刀子)

## 企画展のご案内

第1展示室 「重要文化財公開 元屋敷陶器窯跡出土品展」

第2展示室 「発掘調査報告展 ～土岐を掘る～」

5/15(日)まで

関連展示：パネル展示 「妻木平遺跡 - 祈りと信仰 -」

会場 市役所・1階多目的スペース

期日 3月30日(水)～4月14日(木) 午前8時30分～午後5時15分 ※土・日曜日を除く

美濃陶磁歴史館  
(☎ 056)1245